

一般社団法人日本粘土学会 2023 年度第 1 回常務委員会議事録

日 時：令和 4 年 9 月 8 日（木）12:10～13:02

会 場：島根大学教養講義室棟 2 号館 401 教室

出席者：常務委員(15 名)：川俣 純、日比野俊行、鈴木正哉、蛭名武雄、伊藤健一、
小口千晶、亀島欣一、笹井 亮、地下まゆみ、手束聡子、中戸晃之、森本和也、横
山信吾、渡邊雄二郎、鈴木憲子

欠席者（1 名）：佐久間博

監事(2 名)：志々目正高、高木哲一

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 16 名の過半数 8 名

出席常務委員 15 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2023 年度常務委員会委員（理事会資料 1）

蛭名常務委員長より委員会委員の役割について説明があり、名簿に訂正がある場合は速やかに申し出て欲しいとの要請があった。

2. 2023 年度事業計画年間スケジュール（理事会資料 2）

蛭名常務委員長より、例年通りの計画であり、遅滞の無いように準備を進めて欲しいとのことであった。中戸委員より、ホームページと粘土科学誌に新会長挨拶を載せてはどうかという提案が出され、川俣会長に意見を求めたところ、快諾された。また、川俣会長から粘土科学誌には常務委員長挨拶も載せてはどうかという提案がなされた。蛭名常務委員長からも快諾が得られ、粘土科学編集委員長および広報委員長から両氏に依頼状を出すこととした。

3. 粘土科学討論会について

(1) 第 66 回粘土科学討論会について

蛭名実行委員長から、準備状況について説明があった。開催予定会場である「仙台市震災復興記念館」が紹介された。理事会で説明したとおり、要望が多いハイブリッドでの開催を計画しているが、専門の業者に頼むと費用がかさむので、手作りベースで最大限に満足がいく環境を提供したいとのことであった。昨日のシンポジウムも LOC 独自で構築したものであるが、映像・音響ともに充分良い環境であった。また昨年オンラインでのノウハウも活かすとよいとの意見があった。64 回、65 回では LOC の実行部隊の方がオブザーバーとして常務委員会に出席していたので、次回から敷中さんに出席を依頼することとした。見学会について、近くにゼオライト鉱山、ベントナイト鉱山などがあり開催はできるので、希望者がいるようであれば企画をする予定であることが報告された。

(2) 第 67 回粘土科学討論会について

蛭名常務委員長から第 67 回粘土科学討論会について、九州工業大学の中戸委員を実行委員長に開催してはどうかという提案があり、快諾された。また、中戸委員の挨拶があった。

4. 期末に入会する学生の取り扱いについて（理事会資料4）

蛸名常務委員長より、理事会で決定した方針を進めることが説明された。

5. 収支健全化に向けたワーキンググループについて

川俣会長より、会費を値上げして討論会参加登録費を下げるなど色々な方策があると思うので、理事会で決定したワーキンググループを中心に議論して欲しいとの要請があった。また理事の定員について、現在の定員が決まった時から会員数が半減している。経費節約の面もあるので、理事定員どうするかについても、ワーキンググループで話し合っ欲しいとのことであった。

中戸委員から、以前は周年事業（粘土ハンドブックの出版）による収入があったが、今後どうしていくかの検討が必要ではないかとの意見が出された。50周年事業から年を経たこともあり、現在の常務委員の中には詳しい者がいない。そこで詳しい方に委員をお願いできないかという提案がなされた。議論の結果、山崎前々会長に委員の構成も含めて、周年事業についての検討を頂けるよう、川俣会長からお願いをすることとなった。

6. CMS-Asian Clay 合同会議について（理事会資料5）

時間の関係で省略。

7. その他

手束委員より、会員サービスの一環として、研究機器をリサイクルする仕組みを作ってはどうかという提案があった。会誌やメールで定期的に発信するなど、運用面については法的なこともあるのでこれから詰めていくが、実施に向けて検討する事となった。

粘土科学討論会の開催に伴い事前支出が必要となる場合があるが、その扱いについて取り決めが無かった。LOCによる立替が不要になる方法について、伊藤会計委員より説明があった。開催が決まった時点で、事務局にある討論会の口座から預託金をLOCに送金—参加登録費から懇親会費をLOCに送金—清算後余剰金を事務局に送金、という流れで行うこととした。

以上、審議の上、承認された。

報告事項

1. Clay Science トレース費用について（資料1）

中戸編集委員長から資料をもとに説明があり、了承された。

2. デジタル選挙について

川俣会長より、今回の役員選挙は選挙管理委員会の尽力により、つつがなく施行することができたので、次回からもデジタル選挙を取り入れていくことが報告された。

3. その他

特になし。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和4年9月9日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 蛭名武雄 ㊞

監 事 志々目 正高 ㊞

監 事 高木 哲一 ㊞